

おぎはら耳鼻咽喉科は金曜午前が休診です。その時間は院内装飾の作成、事務作業などを行っています。また月1回、持ち回りで勉強会をしています。1月は毎年恒例、医師、看護師、事務、そして私たち言語聴覚士(ST)が1年間のデータをまとめて報告する「年頭あいさつ」です。カスタネット通信2月号は2023年の言語聴覚士部門の業績報告です。

年頭報告会

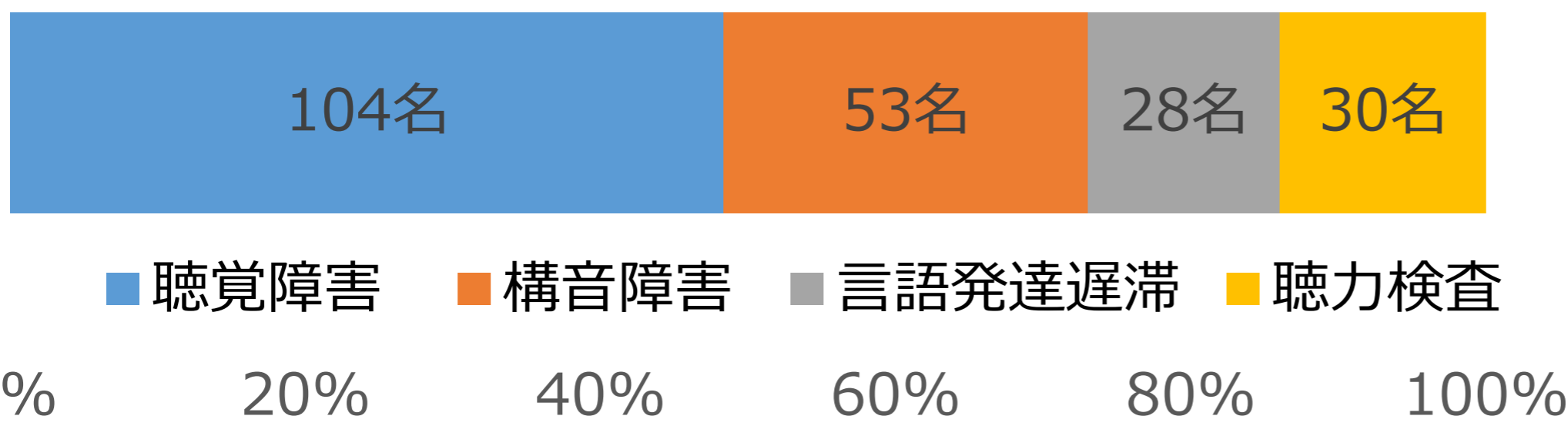
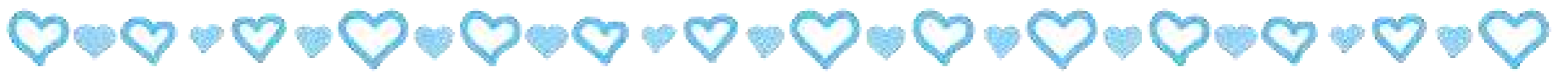


図1. 2023年初診人数

図1は2023年1月から12月までの1年間にSTが初めてお会いした、215名の主訴です。

「聴覚障害」は聞こえの悪さを心配し、補聴器試聴も検討するために受診された方です。

「構音障害」は“おさかな”が“おちゃかな”になる、“コップ”が“トップ”になるなど、発音の誤りの相談にいらしたお子さんが主です。「言語発達遅滞」は“ことばを話さない”、“ことばが増えない”、“保護者が言うことを理解していない”など、ことばの遅れを心配していらしたお子さんです。「聴力検査」は保護者や幼稚園・保育園・療育機関の先生が聞こえを心配して受診したお子さんや、相模原市の3歳6カ月児健康診査で精査を勧められたお子さんなどです。

約半数の104名の主訴が「聴覚障害」で最も多く、次いで「構音障害」が53名でした。「聴覚障害」が多いのは例年通りですが、2023年は「構音障害」主訴の方が多かったこと、数名の差ですが「聴力検査」が「言語発達遅滞」を上回ったことが特徴です。ことばの発達の遅れがあるお子さんは児童発達支援事業所など相談できる場所が増えたことが要因のひとつと考えます。一方、発音の誤りを直す構音訓練や子どもの聞えの検査は言語聴覚士がいる施設でしかできないので、オギジビに紹介され、あるいは保護者が検索して受診したのだろうと考えます。

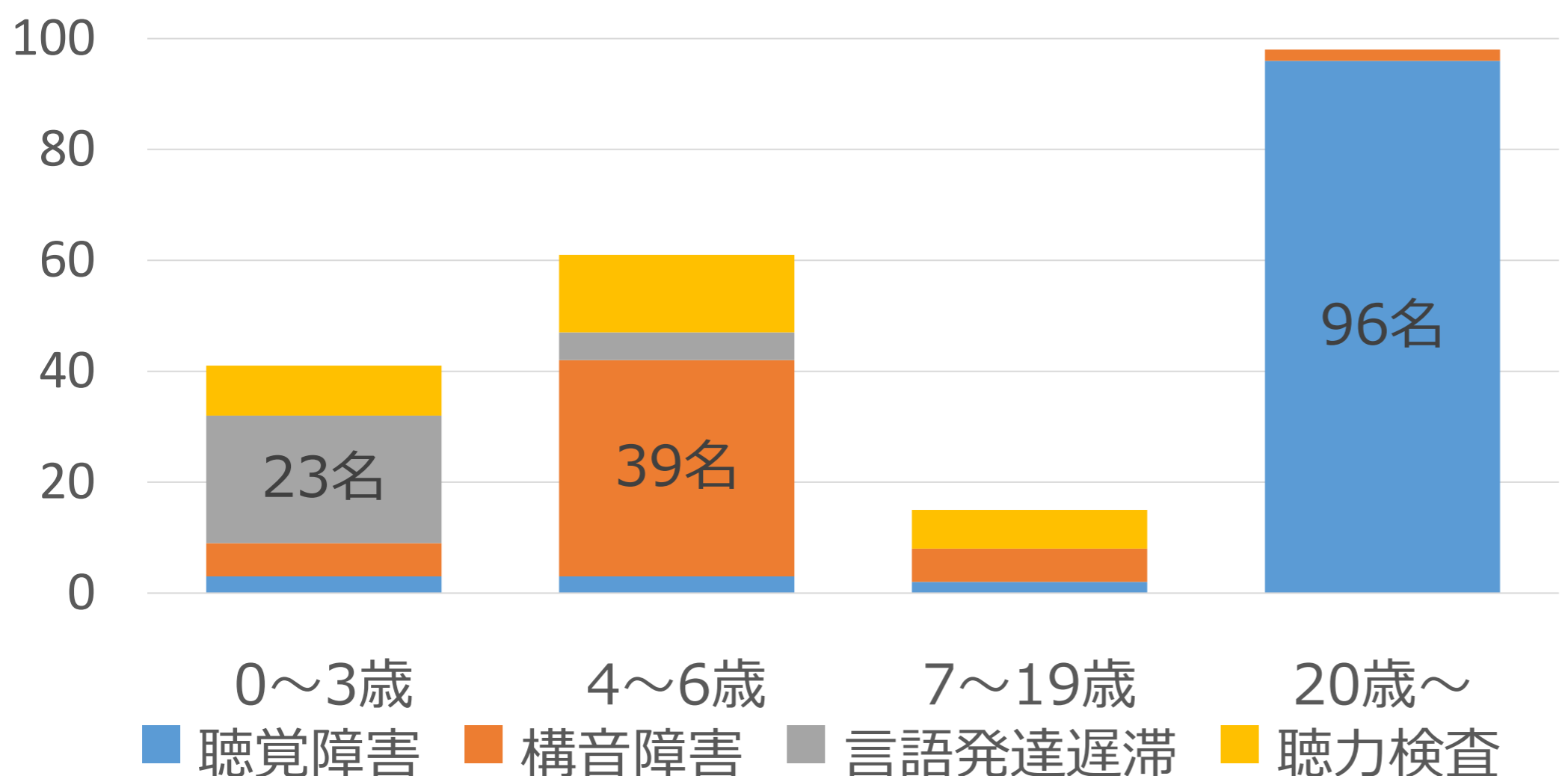


図2. 年齢別主訴

さて、図2はST初診の方々の主訴を年齢別にまとめたものです。成人で「聴覚障害」が多いのは例年通りです。図では示していませんが、そのなかでも70代・80代の方が多く受診されました。また、オギジビで対象としている「構音障害」や「言語発達遅滞」のお子さんは未就学児なので、図のような数値になったと考えます。

「構音障害」を主訴に受診されたお子さんで、発音を直す練習である構音訓練をすぐに開始したのは13名で、その平均年齢は5歳でした。待合室に置いてある構音訓練についてのチラシにも記載してありますが、構音訓練の枠は限られているので、発音が気になった場合は5歳前でも一度ご相談いただければ、発音の検査を実施した上で今後の方針についてご説明いたします。

2023年はご家族や友人の紹介で受診をされる方が増えた印象です。2024年も皆さまのお役に立てるようなリハビリテーションを行いたいと考えています。

2023年振り返り

2023年は学会発表に加え、講演会などクリニック外での活動が多くありました。STが担当した院内装飾も加え、1年間を写真で振り返ってみたいと思います。



夏の思い出とフルーツちゃん



お気に入りの
フルーツちゃん
はいましたか？



みなとみらいの夜景 (臨床医会セッション)



萬翠荘 (日本語聴覚学会)



夜空を彩る星座たち



私は蟹座

おーちゃん (クリスマスver.)



首輪にミッキー
のオーナメント
をつけました

ハロウィンかぼちゃ

最近では色々な
種類の鑑賞用
かぼちゃが
ありますね



おかわりできず



メゾンカイザーのパン食べ放題 (日本聴覚医学会)



中央の写真は愛媛県松山市にある国重要文化財の萬翠荘(ばんすいそう)です。旧松山藩主の子孫にあたる久松伯爵が大正11年に別邸として建設したそうです。

ディーン・フジオカと岩田剛典主演の『バスカヴィル家の犬』の撮影が行われた、というポスターが建物内に掲示されていました。帰宅してから映画を見ましたが「ここ行った!」「あの部屋だ!」とすぐ分かるくらいたくさん映像に出てくるロケ地でした。

今年の学会は神戸と池袋です。勉強もさることながらその街の観光名所、名産品も楽しみたいと思います。